

町田市生涯学習推進計画 2019－2023
事業実績（2023年度分）報告

2024年8月

町田市教育委員会

2 達成状況の評価基準

各取組の評価は、活動指標ごとに、下記の達成状況の基準により行っています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

3 評価の対象となる取組

施策1 家庭教育を支える環境を整備する		
取組	1-1	保護者向けの学習機会の充実【◇】
	1-2	家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】
	1-3	保育室を利用した家庭教育支援事業の促進
	1-4	親子でことばに触れる機会の充実
施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する		
取組	2-1	学習情報の発信力の強化【◇】
	2-2	歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】
	2-3	子ども読書活動の推進【◇】
	2-4	学校図書館との連携強化【◇】
	2-5	生涯学習施設の利用促進
	2-6	読書普及事業の充実
	2-7	シニア世代向け事業の充実
	2-8	障がい者サービスの充実
	2-9	図書館資料による情報提供機会の充実
	2-10	「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実
施策3 学習を“広げる・深める”を支援する		
取組	3-1	地域の課題解決に向けた学習支援【◇】
	3-2	町田の歴史情報の提供【◇】
	3-3	「文学の扉」事業の推進【◇】
	3-4	文化財の維持・保護・復旧の推進
	3-5	文化財の公開・活用の充実
	3-6	展示事業の充実
	3-7	講座・講演会事業の充実
	3-8	レファレンスサービスの充実
施策4 学習成果を活かす機会を充実する		
取組	4-1	市民提案型事業の推進【◇】
	4-2	協働による研究・発表の推進【◇】
	4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】
	4-4	学習成果の発表機会の支援
	4-5	生涯学習ボランティアバンク事業の推進
	4-6	障がい者の学習成果を発表する場の充実
	4-7	図書館運営の地域協働化の促進
	4-8	市民の文学活動への支援
施策5 学習を支える環境づくりを進める		
取組	5-1	支援が必要な人への学習機会の提供【◇】
	5-2	本と出会う場所の創出【◇】
	5-3	文化財の保存と活用環境の整備【◇】
	5-4	歴史・文化資源の調査・研究・保存
	5-5	図書館利用者の利便性の向上
	5-6	地域資料の活用の推進
	5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施
	5-8	町田の文学の継承
	5-9	文学財産の保存

◇…教育プラン重点事業

取組一覧

取組番号	取組名	文化財係	自由民権資料館	生涯学習センター	図書館	文学館
1-1	保護者向けの学習機会の充実			●		
1-2	家庭教育支援の担い手育成・活動支援			●		
1-3	保育室を利用した家庭教育支援事業の促進			●		
1-4	親子でことばに触れる機会の充実					●
2-1	学習情報の発信力の強化			●		
2-2	歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進	●	●			●
2-3	子ども読書活動の推進				●	
2-4	学校図書館との連携強化				●	
2-5	生涯学習施設の利用促進	●	●	●	●	●
2-6	読書普及事業の充実				●	
2-7	シニア世代向け事業の充実				●	
2-8	障がい者サービスの充実				●	
2-9	図書館資料による情報提供機会の充実				●	
2-10	「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実					●
3-1	地域の課題解決に向けた学習支援			●		
3-2	町田の歴史情報の提供	●	●			
3-3	「文学の扉」事業の推進					●
3-4	文化財の維持・保護・復旧の推進	●				
3-5	文化財の公開・活用の充実	●				
3-6	展示事業の充実		●			
3-7	講座・講演会事業の充実		●			
3-8	レファレンスサービスの充実				●	
4-1	市民提案型事業の推進			●		
4-2	協働による研究・発表の推進		●			●
4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援				●	
4-4	学習成果の発表機会の支援			●		
4-5	生涯学習ボランティアバンク事業の推進			●		
4-6	障がい者の学習成果を発表する場の充実			●		
4-7	図書館運営の地域協働化の促進				●	
4-8	市民の文学活動への支援					●
5-1	支援が必要な人への学習機会の提供			●		
5-2	本と出会う場所の創出				●	
5-3	文化財の保存と活用環境の整備	●				
5-4	歴史・文化資源の調査・研究・保存		●			
5-5	図書館利用者の利便性の向上				●	
5-6	地域資料の活用の推進				●	
5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施				●	
5-8	町田の文学の継承					●
5-9	文学財産の保存					●

4 2023年度に実施した取組の事業実績

◇・・・教育プラン重点事業

■取組1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】	生涯学習センター
-------------------------	----------

事業概要	保護者を対象に、子どもの年齢や成長に応じて生じる悩みや問題の解消につなげる学習機会を提供します。実施にあたっては、保護者をはじめ学校、PTAなど幅広くニーズを調査し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0歳児・1歳児とその保護者、妊婦を対象とした「まなびのひろば事業」、乳幼児期から思春期までの保護者向けの学習講座を定期的の実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①まなびのひろば*延べ参加者数		698人	880人	
	②家庭教育講座延べ参加者数		459人	570人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	保護者の学習機会の把握		アンケート等によるニーズ調査・事業内容への反映		
	各種学習事業の実施				
年度目標 (指標①)	730人	760人	800人	840人	880人
年度目標 (指標②)	480人	500人	520人	540人	570人

*まなびのひろば：生涯学習センターで実施する市内在住の0歳児・1歳児とその保護者、または妊婦を対象とした子育てに関するひろば事業。手遊びやスキンシップ遊び、絵本の読み聞かせ、保護者同士の情報交換などを行う。

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	- 生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、事業の見直しを行ったことから、延べ参加者数（保護者）は204人と目標を達成しませんでした。 - まなびのひろばとして、母親と子が参加する「きしゃポップ」、父親と子が参加する「パパと一緒にきしゃポップ」、家庭教育支援の担い手育成事業の修了者が企画・運営する「スマイルきしゃポップ」を合計36回実施しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	- 家庭教育講座の延べ参加者数は480人となりました。 - 家庭教育講座では、乳幼児から思春期までの保護者向け講座を合計28回実施しました。思春期の保護者向け講座は、中学校PTA連合会の協力を得て、メール配信などの協力をいただいたことで、2022年度より19人多い46人が受講しました。 - 当初予定していなかった家庭教育のオンライン講座（「不登校の理解と支援」）を新たに実施しました。配信期間62日で視聴回数783回となり、他市等で実施した際の視聴回数（200～300回）と比較しても、非常に多い視聴回数となりました。 - 子どもたちを遊ばせながら保護者同士で話せる場の提供など、保護者自身が企画・運営したイベントを10回実施しました。思春期の保護者が興味を持っている事項を聞き取り、講座内容に反映しました。
課題	・地域での学びの機会を拡充するため、地域開催していく講座の選定を行っていく必要があります。
今後の取組の方向性	2024年度は再構築した仕組みで実施し、地域開催していく講座の選定について検討します。 2025年度以降は、地域開催を実施し、必要に応じて検証・見直しを行います。

■取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】	生涯学習センター
------------------------------------	----------

事業概要	まなびのひろば事業や子育て講座などの学習機会を地域で展開できるよう、担い手を育成します。実施にあたっては、関係機関と連携しながら、ニーズの把握、育成プログラムや修了後の活動拠点などの検討を進め、家庭教育支援の充実を図ります。				
これまでの取組	家庭教育支援の担い手を育成する事業として「家庭教育支援学級」を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①担い手育成事業修了者数（累計）	31人	164人		
	②修了者が企画した学習事業数	3事業	5事業		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	育成プログラム及び活動支援手法の研究		担い手育成事業の実施 修了者の活動支援の実施		
	修了者が企画した学習事業（3事業）実施		修了者が企画した学習事業（4事業）実施		修了者が企画した学習事業（5事業）実施
年度目標（指標①）	31人	62人	95人	129人	164人
年度目標（指標②）	3事業	3事業	4事業	4事業	5事業

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・担い手育成事業では、家庭教育講座修了者で構成されるゼミや、家庭教育支援の担い手育成事業を合計51回実施し、32人が新たに修了者となりました。修了者数は、2022年度までの119人とあわせて、累計151人です。 ・修了者の継続的な活動を支援するため、保育室等の活動場所の提供及び、家庭教育支援講座の聴講の受け入れを行いました。活動場所の提供は27回、講座の聴講は3人の利用がありました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	・修了者が企画した学習事業は「スマイルパーティ～スマイルママ親子ひろば～」 「親と子のまなびのひろばスマイルきしゃポップ」 「子育てサークルエンジョイタイム」 「フィンランドの生活から学ぶ子育てメソッド」 「身近な人を支えたい方への体験型講座 なやめる人に寄りそうレシピ」の5事業でした。 ・修了者の活動を活性化することを目的とした修了者同士の交流会を開催し、5団体12人の参加がありました。
課題	・担い手育成事業や修了者団体の支援のなかで、地域での学びの機会を拡充につながるよう、誘導する必要があります。
今後の取組の方向性	・2024年度は再構築した仕組みで実施し、地域開催していく講座の選定について検討します。 ・2025年度以降は、地域開催を実施し、必要に応じて検証・見直しを行います。

■取組1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	子育て中の市民が親子向けイベントや講座により多くの参加機会を得られるよう、また自ら活動することができるよう、市民活動団体や市の各部署に働きかけを行い、生涯学習センターの保育室を活動の場とした家庭教育支援事業の促進を図ります。				
これまでの取組	保育室は、生涯学習センターが直接事業に使用するほか、ホールや学習室等で市民の学習活動がある際に補助的に利用されています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	保育室の年間施設利用回数		280回		380回
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	情報収集 周知方法の 検討	検証	検証結果に基づく周知活動の見直し		
	市民活動団体への周知・市の各部署との調整				
年度目標	290回	300回	320回	350回	380回

<2023年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・保育室を活動の場とした家庭教育支援事業について、まちだ子育てサイトやX（旧：Twitter）、町田市メール配信サービスによる情報発信を行いました。 ・家庭教育支援事業修了者の継続的な活動を支援するため、活動の場として保育室を提供しました。 ・中心市街地における乳幼児及びその保護者の交流機会を創出する場として活用を図るため、保育室を開放しました。保育室の年間利用回数は227回（2022年度は208回、2021年度186回、2020年度151回）、利用人数は1,991人（2022年度は2,146人、2021年度1,730人、2020年度1,382人）と2020年度以降、回復傾向にありますが、あり方見直しにより家庭教育支援事業数が減少したこともあり、目標値には達しませんでした。
課題	・家庭教育支援の担い手育成のため、引き続き保育室を活動場所として提供する必要があります。
今後の取組の方向性	・生涯学習センター運営見直し実行計画に基づいた事業となっているか、検証します。 ・来館者や中心市街地を訪れた子育て世代に保育室を開放し、施設及び事業のPRを行います。

■取組2-1 学習情報の発信力の強化【◇】	生涯学習センター
------------------------------	----------

事業概要	学習情報をより多くの市民に提供できるよう、町田市ホームページモバイル（スマートフォン版）の学習情報誌「生涯学習NAVI」の利用促進を図ります。さらに、他団体で発信している情報誌やホームページなどの情報発信媒体との連携を図り、情報発信力を強化します。				
これまでの取組	ホームページや「生涯学習NAVI」の内容を見直しました。また、学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）		目標値（2023年度）	
	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施	未実施		実施（2020年度）	
	②新たな情報発信媒体の活用	未実施		活用（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	利用促進に向けた手法の検討	スマートフォン版「生涯学習NAVI」利用促進に向けた取組の実施・検証			
	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	新たな媒体の活用・検証		
年度目標（指標①）	検討	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
年度目標（指標②）	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	活用・検証	活用・検証	活用・検証

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	スマートフォン版「生涯学習NAVI」の町田市HPへの掲載、多摩地域の暮らしに役立つ広報誌などの電子ブックや地域情報記事を発信するサイトである「TAMA ebooks」への電子書籍版「生涯学習NAVI」の掲載を継続しました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	学習情報提供のデジタル化に向け、生涯学習センターの収集情報のデータベース構築を試行し、2,323件の学習情報をデータベース化しました。作成したデータベースは学習相談資料や主催事業の見直しの際の資料としても活用しました。
課題	・学習情報をより多くの市民に提供するため、生涯学習センターの主催事業のみならず、多様な主体による学習情報を提供する仕組みを構築する必要があります。 ・引き続き、情報発信のデジタル化を進めるとともに、デジタルデバイドにも留意し、必要とする全ての方に情報が届くよう配慮することが必要です。
今後の取組の方向性	・「生涯学習NAVI」など生涯学習情報の提供手段について、従来の紙媒体からデジタル媒体への移行を検討します。 ・多様な主体による生涯学習情報を提供するための仕組みを構築します。 ・インターネットを利用したイベントの開催や、動画配信等による学習コンテンツの紹介、集合形式とオンライン形式を合わせたハイブリット形式イベントの実施など学習機会の提供についてもデジタル化を推進します。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数		4件	10件	
	②SNS発信数		219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
	年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	・自由民権資料館で講座・講演会事業を市内各施設で22件実施したほか、生涯学習センター、文学館では庁内他部署や近隣大学・学校、民間団体との連携事業をそれぞれ35件、16件の合計73件実施し、施設の相互PRに努めました。 ・図書館では、移動図書館車が芹ヶ谷公園のイベントや保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	X（旧：Twitter）による情報発信を自由民権資料館で124回、図書館で81回、文学館で821回、生涯学習センターで59回実施したほか、文学館ではInstagramによる情報発信も110回実施し、合計1,195回のSNSによる情報発信を行いました。 ・図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2023年度には2022年度から88人増加し、1,564人になりました。 ・図書館主催事業の「ひとことPOPコンテスト」の中で、市内5ヶ所の書店にてご協力いただいた「シール投票」について、X（旧：Twitter）にて周知を行いました。複数の書店のSNSでも周知していただきました。
課題	・幅広い利用者層を開拓するため、施設の実施する講座の内容や実施方法を検討する必要があります。 ・それぞれのメディアの特徴を理解し、効果的な活用方法を研究する必要があります。
今後の取組の方向性	・施設を知ってもらうため、アウトリーチ事業の充実や動画などのデジタルコンテンツの作成に取り組みます。 ・ホームページやX（旧：Twitter）などのSNSで情報発信を積極的に行うとともに、SNSとHPの連動やX（旧：Twitter）以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 ・施設への関心をつなぎとめられるよう、継続的に提供している情報の充実を図ります。

■取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	地区協議会をはじめとした地域団体や関係機関と連携・協働しながら、住民自らが課題を見つけ出し、解決に向けて行動できるよう学習支援を進めていきます。				
これまでの取組	鶴川地区の交流促進や様々な困りごとの相談の場となっている鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ」にて「学びのひろば」を共催し、地域の歴史や文化を理解する講座などを実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	連携事業を実施した地区協議会の数（累計）	1地区	5地区		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各地区協議会への働きかけ				
	地区協議会との連携事業の実施	検証	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（2地区）
	2地区	検証	3地区	検証	5地区

<2023年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・2022年度に引き続き、鶴川地区協議会と共催し、和光大学ポプリホール鶴川を会場に開催している「3水スマイルラウンジ」の一企画として、地域の自然、歴史、文化をテーマにした『まなびのひろば』を6回実施しました。 ・市民型提案事業において、町田市成瀬・成瀬台地区における高齢者問題に取り組んでいる地域団体と連携し、地域の高齢者問題をテーマとした連続講座を実施しました。 ・鶴川地区協議会が毎月最終金曜日に開催している「ハッピーフライデー」の一企画として、2024年4月に開催を予定している金融リテラシーをテーマとした講座の実施準備を行いました。
課題	・地域課題が多様化していることから、地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働していく必要があります。 ・事業の認知度向上に向け、広報活動や周知活動に取り組む必要があります。 ・様々な世代のニーズに沿った事業の展開が必要です。
今後の取組の方向性	生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、今後は地区協議会に限定せず、地域で活動している様々な団体と連携・協働して事業を実施します。

■取組4-1 市民提案型事業の推進【◇】	生涯学習センター
----------------------	----------

事業概要	学習ニーズをより反映させた内容となるよう、市民団体の提案を基に地域課題の解決につながる学習講座を提案者とともに作り上げていく市民提案型事業「まちチャレ*」を拡充します。				
これまでの取組	地域で活動する学生団体が企画・運営する学生活動報告会*を開催するとともに、市民提案型事業「まちチャレ」を開始しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	市民提案型事業「まちチャレ」で実施する講座数		5講座	8講座	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5講座実施	6講座実施		7講座実施	8講座実施
	事業実施体制の整備				
年度目標	5講座	6講座	6講座	7講座	8講座

*まちチャレ：市民が日常生活の中の課題等を基に企画提案したものを、生涯学習センターとともに実施する学習講座。

*学生活動報告会：町田市や相模原市で活躍する学生団体が、ポスターブース等で活動内容を紹介するイベント。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・8講座を実施予定でしたが、うち1講座について、企画運営団体の都合により実施を辞退する申し出があったため、最終的に7講座の実施となりました。 ・様々な分野の学習ニーズを反映し、「フィンランドの生活から学ぶ子育てメソッド」「語り伝えられてきた昔話の世界」「なやめる人に寄り添うレシピ」「デフリンピックがやってくる」「さりげない見守り活動/ みまもりサポーター養成連続講座」「子どもをまもろうそだてよう」「プロが教えるお金の講座」を実施しました。 ・「デフリンピックがやってくる」、「さりげない見守り活動/ みまもりサポーター養成連続講座」では、地域や関係者の共助の取り組みを促進する講座を実施することができました。 ・若者や育児中の保護者が参加しやすいよう、3講座は保育付きで実施しました。また、「プロが教えるお金の講座」は学生が企画に参画し、若者世代向けの講座を実施しました。 ・1講座は南第三高齢者支援センターやゆりの木会館を会場とすることで、地域での学習機会を提供しました。
課題	生涯学習センターの施設改修に伴う休館期間においても、継続して事業を実施する必要があります。
今後の取組の方向性	・生涯学習センターの施設改修に伴う休館期間は、市内の公共施設等を会場として事業を継続して実施します。 ・生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、選定基準等を見直し、仕組みを再構築します。

■取組4-4 学習成果の発表機会の支援	生涯学習センター
---------------------	----------

事業概要	生涯学習センターを拠点として活動している市民団体や、町田市及び近隣地域で活動する学生団体が、より多くの人に日頃の活動の成果を発表できる機会を提供します。				
これまでの取組	日頃の活動の成果を発表する「生涯学習センターまつり」、「学生活動報告会」を開催しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）		目標値（2023年度）	
	①生涯学習センターまつりへの参加団体数（来館者数）	53団体（2,167人）		58団体（2,500人）	
	②学生活動報告会への参加団体数	9団体		11団体	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	生涯学習センターまつりの実施（運営委員会による内容検討）				
	学生活動報告会の実施（参加学生団体への支援・内容検討）				
	新たな支援内容の検討	新たな支援に向けた調整	新たな支援の実施		検証
年度目標（指標①）	54団体（2,230人）	55団体（2,300人）	56団体（2,370人）	57団体（2,430人）	58団体（2,500人）
年度目標（指標②）	10団体	10団体	10団体	11団体	11団体

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	生涯学習センターで活動している団体の日頃の活動成果を発表する場として、生涯学習センターまつりを3年ぶりに来場型で実施し38団体に参加しました。当日は2022年度に引き続き「町田時代祭り」、「文学館まつり」、「ゆうゆう版画美術館まつり」との連携企画として各まつりを回るスタンプラリーも実施して周知を行い、1,200人が来場しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	地域で活動している学生団体の成果発表と地域との協働の場として、学生活動報告会カクマチEXPOを開催しました。2023年度は事業企画から学生の意見を取り入れ、謎解きゲームの要素を取り入れて団体活動のPRを行いました。当日は、青山学院大学、桜美林大学、法政大学、和光大学などから10団体に参加し、287人が来場しました。
課題	- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことで、活動を終了した団体や休止した団体が多いため、新たな参加団体獲得に向けた取り組みが必要です。 - 若者層、生産年齢層の参加を増やすため、事業内容や広報手段を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	2024年10月から1年3か月程度、改修工事に伴い生涯学習センターが休館となるため、開催方法を見直す等、学習成果の発表機会の支援を検討します。 - デジタルの活用など、若者層、生産年齢層の興味を引くような事業内容、広報手段を事業に取り込みます。

■取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	生涯学習ボランティアの知識や技能を広く市民の学習活動に活かすことができるよう、生涯学習ボランティアバンク事業の更なる周知に努め、利用件数の向上を図ります。				
これまでの取組	小学校PTA連絡協議会において、保護者向けに事業の周知を図りました。 また、事業の周知のため、生涯学習センターまつりにおいて一日体験講座を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	生涯学習ボランティアバンクの利用件数		16件	30件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たなPR 方法の検討	新たなPR 方法の実施	検証	検証結果に基づくPR方法の 見直しと実施	
	生涯学習ボランティアバンクー一日体験講座の実施				
年度目標	18件	22件	25件	28件	30件

<2023年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・「町内会・自治会活動のハンドブック」への紹介記事掲載及び市ホームページやX（旧Twitter）による情報発信などのPRを継続したほか、3年ぶりにボランティアバンク講師リストを改定し、子ども向け指導者がわかりやすくなるよう誌面を更新し、子ども施設や学校ボランティアコーディネーター向けに周知を行いました。登録団体数は2022年度比4件減の88件となり、制度の利用も2022年度比3件増の7件に留まりました。 ・登録団体の指導スキル向上のため、ものづくりの指導者養成を行っている市民団体と連携し、指導者養成講演会「子どものやる気を引き出す学習プログラムの作り方」を開催しました。
課題	・市内小中学校の地域学校協働活動等での活用が進むよう、学校と地域の学習指導者をつなぐ仕組み作りが求められています。 ・引き続き、子ども向け指導スキルの向上のため、登録者が学ぶ機会を拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	・新型コロナウイルス感染症の流行前後で市民活動にも変化が生じたことを踏まえ、制度の見直しを進めるとともに、制度の積極的な周知に努めます。 ・学校や子ども施設での利用促進のため、登録者向けの研修の実施や制度の改善を図ります。

■取組4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	障がいのある人が、社会で生活しながら学び続けられるように、視覚や聴覚などの障がいに応じた学習要求の調査、研究を行い、学習プログラムを開発します。その上で、発表の場を設けることで障がい者の生涯学習を推進します。				
これまでの取組	主に知的障がいのある人を対象とした障がい者青年学級において、学級ごとに学習成果の発表の場を設けるなど、生涯学習の推進に取り組んでいます。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	障がいに応じた学習成果の発表の場		未実施	実施（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	調査・研究	学習プログラムの開発	事業の実施・検証	事業の実施・検証	事業の実施・検証
年度目標	調査・研究	学習プログラムの開発	実施・検証	実施・検証	実施・検証

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・障がいのある人のための学習講座【肢体不自由編】として全4回コースの講座「車いすや義手でも、できること」を実施しました。 ・講座の周知にあたっては、当館を利用される障がいのある方にも直接声を掛けるなどした結果、全受講者のうち3割ほどの肢体不自由の方の参加がありました。そのほか、聴覚障がいのある方、視覚障がいのある方も受講しました。 ・全4回のうち3回に講師を障がいのある当事者に依頼したうえ、講座のなかでは講師・受講者にかかわらず全ての参加者同士の話し合いの場を設けたことで、障がい者の発表の場を充実させることができました。 ・アンケートでは、肢体不自由について理解を深めることができたと答えた人の割合は100%でした。
課題	・障がいのある方の参加は安定してきていますが、引き続き対象とする障がい種別に配慮したPR方法の工夫が必要です。 ・聴覚、視覚、身体障がいといった障がいに応じた学習講座は、障がい者の学習成果を発表する場の充実のため、今後も実施していく必要があります。
今後の取組の方向性	・障がいのある人のための学習講座は、関係団体に協力を求めてPRを行うなど受講者を広く募集し、障がい者の学習成果を発表する場の充実のため、今後も実施していきます。

■取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	外国人居住者、障がい者、ひきこもり当事者など文字の読み書きや基礎学力の学び直しを求める人の学習機会を保障するため、学習に関するニーズ調査を行い関係機関と連携して学習機会を提供します。				
これまでの取組	障がい者を対象とした「障がい者青年学級」、ひきこもり当事者を対象とした居場所事業などを実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①多文化共生*に関する学習事業数		1事業	3事業	
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数		3事業	5事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各種学習事業の実施 関係機関への働きかけ				
	参加者アンケート等によるニーズ調査・ 事業内容への反映			市民意識 調査での ニーズ 把握	新たな 事業の 実施
年度目標 (指標①)	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業
年度目標 (指標②)	3事業	4事業	4事業	5事業	5事業

*多文化共生：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きていくこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	国際交流センター共催事業で「まちだdeトークプラザ2 -日本で働く外国人-」を実施し、多文化共生への理解を深めました。また、平和祈念事業で「親子で体験！だれもが楽しめるパラスポーツイベント～ボッチャとユニカールを体験しよう～」を実施し、パラスポーツへの理解促進の機会を創出しました。さらに、市民提案型事業では、2025年に東京で開催予定の夏季デフリンピック競技大会を見据え、「デフリンピックがやってくる！～国際手話を学ぼう～」を実施しました。
達成状況 (指標②)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標②)	・「障がい者青年学級」事業を継続し、より多くの障がい者の方が学び続けられるように、事業の再構築に向けた検討を行い、再構築の方向性を決定しました。検討にあたっては、事業関係者や障がい当事者の方にアンケート調査等を行い、生涯学習センター運営協議会で意見聴取しました。 ・学力の基本を身につけたい方向けの無料学習会「まなびテラス」を実施しました。 ・市民提案型事業で、社会的困難を抱えやすい高齢者への支援を学習する「さりげない見守り活動/みまもりサポーター養成連続講座」を実施しました。 ・障がいのある人のための学習講座「車いすや義手でも、できること」を実施したほか、市民団体との共催で「車いす街歩きイベント」を実施しました。 ・まちだ市民大学HATS福祉講座では、前期に認知症サポーター養成講座を行ったほか、車いす使用者の体験談を聞き、実際に車いす体験をする講座を実施しました。また、後期は若年性認知症や聴覚障がい者について学ぶ講座を実施しました。
課題	・事業の実施にあたっては、引き続き関係機関と連携していく必要があります。 ・学ぶことに支援が必要な方の学習機会を充実させていく必要があります。
今後の取組の方向性	生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、誰もが公平に学べる環境を整備するための再構築を行います。